

令和3年度文京区アカデミー推進協議会  
第4回分科会(観光、国内・国際交流)概要記録

日 時	令和3年8月23日(月) 18:00～19:20
会 場	オンライン開催(Zoom)
出席委員	座長 山田 徹雄 小能 大介、関 誠、内藤 雅義、佃 吉一、杉田 明治、清水 恵一、 小島 えりか、堀 正孝
欠席委員	彼島 巽
事務局	高橋征博アカデミー推進部長 細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長 堀越厚志アカデミー推進部観光・都市交流担当課長
資料	資料1 国内・国際交流分野の施策体系等 参考資料1 令和3年度 事業調査結果A 国際交流分野 参考資料2 令和3年度 事業調査結果B 国際交流分野
(議事) 1 議題  ◎委員意見 ◆事務局説明	<p>1. 国内・国際交流分野の施策体系等について 資料1に基づき、国内・国際交流分野の施策体系等について説明。</p> <p><u>(1)国内・国際交流の定義について</u></p> <p>◎国内・国際交流の定義については、事務局から報告された内容の通りで良いと考える。 ◆承知した。</p> <p><u>(2)現状と課題について</u></p> <p>◎「①ICTを活用した非接触型交流の必要性」と「②区民ニーズの把握と興味・関心に応じた取組の充実」について、まさにこの会議自体がZoomで開催されていることもあり、オンライン等は浸透していることから、意見収集もZoomを活用してみたらどうか。また、「⑤国際交流都市・国内交流自治体の認知度向上」について、区内には34か国の外国人が働いているロボット関連の民間企業がある。そのような民間企業からの意見収集などを取り入れられると良いのではないかと。</p> <p>◆「①ICTを活用した非接触型交流の必要性」について、今後も交流形式が多様になってくると予想している。ドイツ(カイザーズラウテルン市)との交流において、先日オンラインによる学生同士の意見交換会を開催した。これまでは実際に訪問して交流していたが、多頻度で訪問できない国の人達であっても交流を充実させることができると考えている。それから「⑤国際交流都市・国内交流自治体の認知度向上」について、興味深く拝聴した。今後も何かしらサポートできることがあれば、そのような民間企業とも連携して交流を充実させていきたいと考えている。</p> <p>◎今は留学生が少ないので交流も少なくなっている。しかし、アフターコロナの社会では多くの外国人が就職のために日本を訪れる可能性が高い。商工会議所と自治体とで連携して就労支援を行っていただけるとありがたい。</p>

- ◆ご意見を踏まえて取組を検討させていただきたい。
- ◎外国人の就労状況について、民間企業側からみると、ダイバーシティを活力へという流れがある。日本には、公立小・中学校のそれぞれの学年段階に応じた国際理解教育や英語教育の一層の充実を図るために、ALT(外国語指導助手)を活用する仕組みがある。ALTとしての役目を終えた外国人が、その後の就労に困っているということを耳にする。アカデミー推進部の事業において、このような外国人に対して支援できると良いのではないか。
- ◆ALTの役目を終えた外国人が継続的に文京区と関わり、好きになり、区内に住み続けるなど、上手くつながると良いと考えている。ご意見を踏まえて取組を検討させていただきたい。
- ◎文京区は国内の13自治体と協定を締結している。13自治体間の連携があっても良いのではないか。文京区を中心として13自治体相互に交流があると、文京区で開催される交流イベントにも効果的と考えている。
- ◆これまではいくつかの自治体間という事例はあったが、13自治体が相互に交流を図る機会はなかった。ご意見を踏まえて取組を検討させていただきたい。
- ◎「①ICTを活用した非接触型交流の必要性」について、国内交流におけるICTの活用は読み取れる一方で、区内在住の外国人との交流においてもICTを活用した交流を促進するなどの趣旨を加えられないか。
- ◆区内在住の外国人に対するICTの活用も考えているところである。ご意見を踏まえて推進計画への記載内容を検討させていただきたい。

### (3) 施策体系の考え方について

- ◎区内在住の外国人における最も大きな問題は住環境の確保と考えている。学生から社会人にかけてそこまで多額の収入を得ることができるわけではないので、住環境の支援があると継続的に外国人に住んでもらうことができるのではないか。
- ◆住環境はすぐに解決できる問題ではないが、事務局としては文京区と関わりを持つ関係人口を増やしていくことも重要と捉えている。学生の時に文京区に住んだ経験を持ち、別の場所に住んでいても文京区との関わりを持ち続ける人を増やしていくことも重要と考えている。
- ◎高齢者が多くなり、空き家対策が求められているように思う。外国人への住環境支援と空き家対策を結び付けていくという仕組みを検討できないか。
- ◆もう少し状況を把握しつつ、取組を検討させていただきたい。
- ◎関係人口というキーワードは良いと考える。今の記載内容をみると「住みやすい」となっているが、「親しみやすい」という言葉を加えてみてはどうか。離れていても、文京区に対する帰属意識を持つという意味で趣旨を含めることができると思う。
- ◆ご意見を踏まえて記載内容を検討させていただきたい。

### (4) 施策体系について

- ◎国内交流について、各地方の特徴と区の特徴についての意見交換を図り、地域における社会問題を一緒に解決できるような取組を推進していくと良いだろう。

- ◆ご意見を踏まえて取組を検討させていただきたい。
- ◎「③外国人が活躍できる環境づくり」について、区内在住の外国人同士が情報交換できる場、生活上の悩み等を共有できる場を提供できたら多文化共生社会という視点では良いと考える。
- ◆確かに、外国人同士の交流を促す場も重要と考えるため、ご意見を踏まえて取組を検討させていただきたい。

#### (5) 基本方針と施策の方向性について

- ◎今もキャンプを通じて交流を図っている取組を行っている。キャンプと似たようなレジャーでグランピングという遊びが流行しているため、力を入れていけると良いのではないか。また、区内事業者においても、キャンプやグランピング等への支援を促すことができると良いのではないか。
- ◆より多くの区民が参加できるように、区内事業者と連携を図りながら取組を検討させていただきたい。
- ◎国内交流自治体とは食を通じた取組を実施している。国際交流においても同じような取組をしてみてもどうか。トルコ料理やドイツ料理をメニューとして提供するイベントへの参加する区内飲食店を募り、国際交流自治体の認知度向上のために協力してくれた飲食店にはメニュー開発のための一部補助するなどの支援を行う取組なども良いと考える。
- ◆これまで区でも食を通じた国際交流のイベントは開催しているが、より一層充実できるように区内事業者と連携して取組を発展させていくことができれば良いと考えている。
- ◎区内在住の外国人及び留学生に対して、地方の就労情報を集約・提供していただけるとつながりが広がるだろう。
- ◆国内13自治体との交流関係を深めていく中で、就労支援のような視点も取り入れつつ交流をより一層充実させていきたい。
- ◎国内交流の文脈には防災というキーワードを加えてみてはどうか。
- ◆観光交流や都市交流だけではなく、防災なども含めた様々な切り口で関係性を深めていきたいと考えている。
- ◎文京区としてのFacebookがあるように、アカデミー推進部独自でアカウントを作成し、負担のない範囲で区の魅力や交流に関連したコンテンツを発信できると良いのではないか。
- ◆事務局としては情報発信の質とスピードが重要と考えているので、今後、より効果的な方法を検討させていただきたい。

#### (6) その他について

- ◎新型コロナウイルス感染症が収束すれば、留学生が多くなる見込みである。一方、コロナ禍で奨学金だけでは苦労している留学生も一定程度いる。このような留学生を応援する仕組みづくりを模索している。文京区コミュニティバス「Bーぐる」の無償化、都バスのチケット配布を展開できると良いのではないか。また、町会活動の様

	<p>子を鑑みると、紙媒体である掲示板も効果的と考える。</p> <p>◆ご意見を踏まえて取組を検討させていただきたい。</p> <p>◎コロナ禍になる前は海外から多くの外国人が訪れていた。文京区の五大まつりに訪れた時に、まつりの由来やゆかりのある場所などの情報を提供できる仕組みも重要と考える。</p> <p>◆確かに、観光地を訪れた際に歴史・文化に関する説明があるとその土地の理解が進む。より文京区に愛着を持ってもらえる取組として重要と考える。</p> <p>◎文京区のPRを図りたいのであれば、留学生と連携することも一つの選択肢だろう。写真コンテストなどを開催し、SNS等に投稿した写真の評価の高い学生には何かしらのメリットを与えるなど、学生にメリットのある仕組みをつくっていただきたい。</p> <p>◆SNSを通じた発信力、特に若年層の力は高いと認識している。今後、SNSを活用して情報発信に関する取組を検討させていただきたい。</p> <p>◎SNSであればハッシュタグを上手く活用してもらい取組も検討できると考える。文京区の魅力を発信した人には、抽選で賞品が当たるなどという取組があれば、参加が増えるのではないかな。</p> <p>◆今後、SNSを活用して情報発信に関する取組を検討させていただきたい。</p> <p>◎「ア 海外都市との交流の活性化」について、友好都市の情報発信を区民に広げていくことが重要と捉えている。友好都市に住んでいる日本人に、その都市の情報を発信してもらえる場があっても興味深い。</p> <p>◆アカデミー推進部のスポーツ振興課では、ドイツの文化や日常生活について区民と一緒にオンラインで学んでいただく機会は設けていた。その取組を発展させて検討できればと考える。</p> <p>◎コロナ禍をきっかけにオンラインの取組に力を入れている。新型コロナウイルス感染症が収束したら、文京区を訪れる人が増えると思うので、やさしい日本語も含めて言語の支援を継続していただきたい。</p> <p>2. その他        次回の分科会もZoomで開催する。</p>
3 閉会	